

## 論文内容要旨

論文題名：大学病院に勤務する看護職員における部署異動の経験と首尾一貫感  
および職業ストレスの関連性

専攻領域名：基礎・臨床・統合医療領域

氏名：白戸 信行

### 要旨内容

【背景および目的】近年の医療情勢において、看護師の人材確保は重要な課題であり、「いきいきと働き続けられる」ためには、様々なストレスに対応する力が必要と考えられている。SOC はストレス対処能力とも言われる認知的評価に関わる概念であり SOC 得点が高いとバーンアウトしにくいことや、精神的健康度が保たれることがわかっている。本研究では部署異動と SOC 及び職業性ストレスの関連性を明らかにするとともに、キャリア形成の一環としての部署異動後の支援プログラムのあり方を見出すことを目的とした。

【方法】大学病院に勤務する看護師（新入職者を除く）2763 名に対し、基本属性（性別、年齢、部署異動の経験、現部署での勤務年数、部署異動の回数、今まで経験した部署の診療科、最近の部署異動の契機、部署異動をしての思い）、および人生の志向性に関する質問票（SOC 質問票）、臨床看護職者の仕事ストレスサー測定尺度（NJSS）を使用し、ウェブアンケートにより調査した。（倫理委員会承認番号 第 468 号）

【結果】看護師 1013 名（有効回答率 36.6%）を解析対象とした。異動経験群と非経験群の比較では、SOC は下位尺度「処理可能感」（ $p < 0.05$ ）で異動経験群の方が有意に低かった。また NJSS 総合ストレイン値（ $p < 0.001$ ）および、下位尺度 4 項目で異動経験群の方が有意に高かった。異動肯定群と非肯定群との比較では、SOC のすべての項目と NJSS 総合ストレイン値（ $p < 0.001$ ）において肯定群の方が有意に高かった。また、肯定群と非肯定群別の 2 項ロジスティック回帰分析において、肯定感では年齢と SOC が独立した因子となった（ $p < 0.05$ ）。部署異動の肯定感において、異動希望群は非希望群と比較して有意に高かった。

【考察】異動経験群は様々なストレスを感じながらも、今までの経験を活かすことでストレスが軽減できており、部署異動によるストレスは SOC へ明らかな影響を及ぼさなかったと考えられた。非肯定群、特に希望以外での部署異動となった場合などの、異動後の SOC が低い人は、環境の変化に適応できていない状況であり、より手厚い支援が必要である。

【結論】部署異動後に感じやすいストレスなどについて個別的に対応するとともに、部署異動の動機付けとして異動理由や期待を明確に伝え、自己の役割を認識できるような部署異動後の支援プログラムが必要である。